

科目名：造形表現Ⅱ (選択2単位)		担当教員名：佐藤鷹通	使用テキスト：出版社名・テキスト名
		担当形態：単独	保育内容 領域 表現 日々わくわく生きる子どもの表現(わかば社)
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 表現
授業の到達目標及びテーマ： 造形表現での学びを基礎とし、幼児の表現活動を支える保育者として感性を豊かにする手立てを具体的に身に付ける。			
授業の概要： 造形表現の授業での学びを踏まえ、版画や立体造形などの各分野にわたって保育者として相応しい表現力を身に付けるとともに、子ども一人ひとりの造形表現活動に合った援助方法を学ぶ。			
回	項 目	内 容	
1	四季感情表現(春・夏)	八つ切り画用紙に1辺10cmの正方形を4個描き、中を縦横5等分して2cm四方の升目25個を作る。そこに季節に合った色を混色で生み出し、升目をはみ出すことなく丁寧に塗る。	
2	四季感情表現(秋・冬)	制作に必要な用具の扱いについて説明し、ムラなくバランスの取れた作品に仕上げる。特に夏の暑さと、秋の紅葉は色調が似ているので注意を要する。	
3	四季感情表現(まとめ)	ムラなく綺麗に塗るためのコツ、修正の仕方を説明したうえで、個別指導を行う。	
4	紙版画(版造り)	スマホから画像を見て版造りをするのではなく、対象となるものを自ら思い出して表現する習慣を身に付ける。版の作り方にも工夫する喜びを体験する。	
5	紙版画(刷り)	混色し、新しい色を生み出す努力、版の重ね・追加等新たな印刷方法を考え試そうとする意欲的態度を養う。	
6	球果立体表現(構想)	前年度に収穫した松ぼっくり等の球果数種類、木の葉、紅葉、枯れ葉等を活用して、トトロ・フクロウ・その他の動物等の置物や壁飾りを考える。	
7	球果立体表現(制作)	構想が決まった段階で、絵本等を参考にしながら必要になる木片や布等を決めて揃える。	
8	球果立体表現(制作)	何を表現したいかを意識しながら必要な素材を探し完成を目指す。	
9	壁絵(班編成・構想)	くじ引きで班編成を行う。その中で新しい人間関係を築き上げることができる力を養う。教室内に掲示してある上級生や卒業生の作品に触れながら、自分たちのグループが何を表現するか構想を練る。	
10	壁絵(構想・製作)	構想が決まったら、自分たちのグループの特色を生かせる素材を探し、それぞれの得意とするものを活かしながら制作に取り掛かる。	
11	壁絵(制作)	制作途中で、何が物足りないか、何を足せばよいのかを討議し、更にレベルアップさせていこうとするグループとしてのモチベーションの維持を意識して制作を続ける。自ら保育者になった時に、この体験が、子どもたちの意欲の持続に役立つことを体験する。	
12	壁絵(制作・完成)	全員が諦めず、それぞれの得意とするものを伸ばし、苦手なところを補い合いながら完成させていく喜びと達成感を味わうグループ活動にする。	
13	窯芸(制作)	素焼きした器に楽焼用絵の具で絵付けをし、釉薬を施し、置物として普段飾れる作品か、粘土を素焼きしただけの土鈴を作るかを各自選択して制作する。	
14	窯芸(制作)	粘土作品を作る上での注意点3つを確認する。①制作中の粘土には絶対空気を入れない。②作品には必ず記名する。③部品をくっつける部分には小さな傷をつけ泥を塗り、押し付けて接続する。	
15	指導案について	教育実習、保育所実習を見据えて、指導案作成について、造形表現の観点からの理解を促し、実際に指導案を作成する。	

期末試験は実施しない

参考書・参考資料：

幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針 (平成29年3月告示)

季節の製作あそびとプレゼント工作 (成美堂出版)

学生に対する評価方法：

課題等の総合評価。